

中海の漁業実態調査（刺網、ます網）

（汽水域有用水産資源調査）

古谷尚大・開内 洋

1. 目的

中海の代表的な漁業であり、様々なサイズの複数魚種の周年的な出現動向を把握できます網と、成魚を積極的に漁獲している刺網について魚種や漁獲量を詳細に把握し、中海の有用魚介類の有効活用を図るための基礎資料を収集する。

2. 方法

（1）標本船野帳調査

漁業実態および有用魚介類の動態を把握するために、刺網1地区（江島）、ます網1地区（本庄）で、漁業者各1名に操業日誌の記帳を依頼した。なお、ます網漁業者は10月で廃業したため、日誌の回収は8月分までとなった。

（2）漁獲物買取り調査

ます網1地区（本庄）において、月1回の頻度で全漁獲物の買い取りを行い、出現魚種や体長組成等を調査した。なお、上記のます網漁業者が10月で廃業したため、11月以降は欠測となった。

3. 結果

（1）標本船調査

今年度の刺網の年間漁獲量は、平年（過去5年平均、以下同様）よりも約1.4トン少ない4.4トンで、平年の75.6%であった（表1）。魚種組成は、スズキとボラの2魚種が漁獲の大半を占めており（84.5%）、平年（89.4%）と同様であったが、クロダイの比率が昨年同様増加傾向にあった（2024年：13.9%、平年：8.6%）。漁獲量の減少は、冬季に時化日が多く、漁獲努力量の減少によるものと考えられた。

本庄地区のます網の4～8月期漁獲量は0.5トンであった（表2）。今年度の主要魚種は、平年と同様アカエイ、スズキ、モズクガニの3種であった。

（2）ます網漁獲物買取り調査

本庄水域の買取り調査で、今年度に出現した魚介類を取りまとめたところ、魚類が9目18科の24種、甲殻類が1目2科の4種で、合計10目20科28種であった（添付資料-表3）。

今年度の出現種の組成を尾数割合（添付資料-表4）でみると、ヒイラギが最も多く、次いでサッパ、カ

タクチイワシ、スズキ、コノシロと続いた。

表1 中海水域における刺網標本船野帳調査結果（漁獲量）

刺し網	2024年		過去5年平均（2019～2023年）	
	漁獲量（kg）	比率（%）	刺し網	漁獲量（kg）
スズキ	2,682	61.0	スズキ	2,971
ボラ	1,035	23.5	ボラ	2,225
コノシロ	38	0.9	コノシロ	9
アカエイ	0	0.0	アカエイ	1
キチヌ	0	0.0	キチヌ	31
クロダイ	613	13.9	クロダイ	498
ヒイラギ	0	0.0	ヒイラギ	0
ヒラメ	0	0.0	ヒラメ	3
マゴチ	8	0.2	マゴチ	51
その他	19	0.4	その他	23
合計	4,395	100.0	合計	5,813

表2 本庄水域におけるます網標本船野帳調査結果（漁獲量）

本庄	2024年（4～8月）		過去5年平均（2019～2023年）	
	漁獲量（kg）	比率（%）	本庄	漁獲量（kg）
アカエイ	179	34.0	アカエイ	818
コノシロ	42	8.0	コノシロ	161
スズキ	102	19.4	スズキ	464
サッパ	0	0.0	サッパ	141
マハゼ	2	0.3	マハゼ	54
マアジ	22	4.1	マアジ	152
ヒイラギ	1	0.2	ヒイラギ	103
モクズガニ	145	27.4	モクズガニ	210
ウナギ	6	1.1	ウナギ	34
クロソイ	2	0.3	クロソイ	80
タイワンガ	3	0.6	タイワンガ	19
カタクチイワ	5	0.9	カタクチイワ	11
その他	20	3.7	その他	127
合計	528	100.0	合計	2,375